

第2回長久手町総合計画審議会

日時	平成20年10月14日（火）午後2時00分から4時まで		
場所	福祉の家2階集会室		
出席者	会長 佐々木雄太 職務代理 横田浩臣 委員 相原愛 委員 青山宏 委員 浅井信義 委員 岩田昭彦 委員 大河原良 委員 勝野浩 委員 加藤貴志子 委員 川本勝 委員 菊地正悟 委員 島田善規 委員 谷澤明 委員 寺島五雄	委員 水野賢二 委員 山本理絵 委員 吉田和子 委員 吉田濱一 委員 吉田美千代	事務局 まちづくり推進部長 企画政策課長補佐 企画情報係長 専門員 コンサルタント3名
欠席者	委員 寺島末美	委員	渡辺聖司
会議の公開	公開		
傍聴者数	0名		
審議の概要	<報告事項> ・第1回審議会以降の進捗状況について ・今後の策定スケジュールについて <検討事項> ・第5次総合計画基本構想（案）について		
問合先	まちづくり推進部企画政策課企画情報係（内線253）		

議事録

【開会】

- 企画政策課あいさつ
- 前回出席できなかった委員の紹介及びあいさつ
- 配布資料の確認

【報告事項 第1回審議会以降の進捗状況、今後の策定スケジュールについて】
事務局より説明。

【検討事項 第5次総合計画基本構想（案）について】

事務局より説明。

<質疑応答>（第5次総合計画基本構想（案）に関連する質疑応答）

委員

5つある基本方針の中で、「リニモでにぎわい交流するまち」の“交流するまち”の理念は何か。なぜ交流するのか。他の4つの文脈と少し違うように感じる。

事務局

将来像にある「交流都市」で、一番意識したことは「リニモ」である。モリコロパーク、名都美術館、トヨタ博物館などの観光資源、集客施設が周辺にあるが、相互にネットワーク出来ていないというのが実感である。リニモを使って様々な交流が実現できる仕組みを検討する必要がある。

会長

「交流するまち」といった時、誰と誰が交流するのか、この町の将来像からは見えにくいですが、リニモを活用して、外から訪れる方と町との交流や町の中での交流の両面を描いているということであれば理解できる。

委員

将来の人口と、町の税収の見込みについて、昨今言われている景気の減速を考慮して計画されているのか、お聞かせ願いたい。

事務局

長久手町の土地の評価は県内で名古屋市に次いで高く、住宅地としての魅力を発信していることから、長い間高い水準を維持できているのではないかと思う。固定資産税や住民税も安定している。今後も、住宅地としての質と土地の評価を高めていくことにより、町の税収を維持できると考えている。

委員

全国的には、平成の大合併後も、国土形成計画や定住自立圏構想、道州制により、自治体規模のあり方の議論が活発化している。このような中で、町の総合計画の中では、自治体規模や行政運営についてどのように考えているのか。

長久手で生まれ育った住民は意外と少ないと思う。新住民は、伝統的なお祭りにも参加しにくく、こうした住民が参加できる仕組み作りも、第5次総合計画の中で必要かと思う。

交流について、中部圏の広域地方計画の方針案には、「国内外の多様な交流の拡大」「東アジアとの連携強化、国際観光」とあり、交流と観光は同レベルで使われている。構想案の記述自体には問題ないが、誰と交流するのか、交流という言葉をもう少し議論する必要があると思う。

事務局

定住自立圏構想や道州制の動きについては私どもも注目しているが、どのような枠組みかが具体化されていない。我々の考えとしては、独立した自治体として、経営、まちづくりの主体的な方向を共有化しながら進めていきたいということである。

ご指摘のとおり、自治会組織は現在厳しい状態にあり、元々あったお祭りも新しい住民が参加しにくいという現状がある。地区懇談会では、自治会組織を盛り上げる要素としてお祭りはどうかという提案もあり、伝統的なお祭りをはじめ、新しいイベントなど皆さんが楽しめる取り組みを作っていきたいと思う。今後お示しする主要プロジェクトの中で、展開していければと思う。

委員

高齢社会が進む中、元気な高齢者に対しては記述されているが、元気ではない高齢者についての方針はあまり見えてこない。愛知医科大学やたいようの杜など民間の施設はあるが、町として医療・福祉の観点から、こういった理念を持って進めていくのかという部分を示して頂きたい。

事務局

介護保険制度では、地域全体という広い概念で運用され在宅介護を進めているが、在宅介護だけでは現実的には難しいと思う。今後の福祉の在り方は、基本構想案にもコミュニティビジネスと記述したが、自治体で施設を作って対応することは難しくなっていくと予想されるため、地域の福祉サービスの担い手として元気な方々の力をお借りしながら住民団体や NPO などの組織を支援して進めていきたい。このように、自治体、住民、民間それぞれが役割を認識し、お互いに協力し合える仕組みを作っていくという方針でご理解頂きたい。

委員

住民によるまちづくりは非常に重要であると思うが、大人だけでなく、子どもや中高生、大学生など多様な年齢層が参画できるまちづくりを目指して頂きたい。

事務局

学生が多い町でありながら学生との交流がこれまでは少なかったため、そこは意識して記述させていただいた。また、産み育て支援していくという、親の立場での記述はあるが、子どもの参加については、具体的に記述していない。分野別計画の方で整理する必要があると思う。

委員

基本方針5に「協働」とあるが、町としては具体的にどういった協働を考えているか、お聞かせいただきたい。

事務局

例えば、住民活動の場としての公共施設の使い勝手が悪い場合が多く、住民活動に規制をかけてしまっていることもあるため、きちんと整理して取り組んでいかなければならない。行政と住民

の皆さんをつなぐ、中間的な役割（コーディネーター）も必要ではないかと思う。だれもがまちづくりに参加しやすい土壌や仕組みづくりが「協働」の道筋では重要と考えている。

委員

新旧住民の繋がりが浅いように感じる。また、地域によっては自治会と分会とでコミュニティ組織が異なるが、町としてはどのように考えているのか。また、自治会などの組織の運営支援をどのように考えているのか。

事務局

地域の実情により、自治会組織の体制や活動内容が異なっており、さらにはその加入率にも差が生じている。この実情をふまえて、自治会組織のあり方が重要な課題だと認識している。地域ごとの特徴を把握しながら、自治会活動を支援していきたいと思う。

委員

万博が開催されたまちであるため、国際化への期待感がある。リニモを軸とした交流だけでなく、国際的に開かれた交流も促進して頂きたい。その時に、住民がイベントを開催する場合、どこに相談すれば良いかわかるように、町で一本化した体制があると良いのではないかと。

事務局

住民との交流は、今年度からまちづくり協働課を中心に進めている。担当部署を中心に住民活動をコーディネートできるよう働きかけていきたい。また、まちづくり協働課では、「まちづくりセンター」の運営をはじめ、地域間交流、観光交流、国際交流を担当しているので、様々な交流に関する相談などに対応できると思う。

委員

基本方針1に、「田園バレーを力強く推進します」とあるが、具体的な内容を教えて頂きたい。農業の担い手をどう育てていくか、町がきちんとした体制で支援していくことが重要ではないか。また、自治会の活性化は、防災や交流の視点からも非常に重要なため、育成方針を明確にするべきだと思う。

事務局

田園バレー事業は、第4次総合計画の環境緑地系プロジェクトとして、平成14年度から様々な事業に着手し、昨年にはあぐりん村ができ、概ね目標は達成されたと考えている。しかし、第4次総合計画を策定した段階にはなかった地産地消、食育、食の安全などの新たな課題が出てきた。第5次総合計画では、田園バレー事業を主要プロジェクトではなく、基本方針として明確に打ち出して、さらに積極的に進めていきたい。農業の後継者を育てていくことも重要な課題であり、その点については分野別計画で進めていきたい。

自治会については、今年度から、農村環境改善センターと交流プラザの担当が自治組織を支援す

る部署に変わったため、これらの施設を自治組織の活動拠点として発展させようとしている。

委員

地区別懇談会のご意見等が5次総合計画へどのように反映されているか。また、実施計画に関係してくると思うが、施策の見直し方法についてお聞かせいただきたい。

事務局

実施計画は従来通りのローリング方式で見直しを行う。福祉、防災、自治会組織など材料は多様であり、定期的な見直しの重要性は認識している。

<その他の意見>

委員

ごみの最終処分に関する問題、火葬場などについて、従来の広域行政としての運営が継続可能かどうかの検証が必要と考える。

委員

町の広報を見る機会が少なかったり、インターネットも見er人が限られていると思う。町の情報、行政の在り方を周知させる方法についても、ご検討いただきたい。

地域の連帯が非常に重要であると思う。自治組織を町の方で指導し推進していただきたい。

委員

従来の行政の支援は、箱モノを作って終わりという場合が多かった。基本構想案の中にも支援という言葉が所々にみられるが、何を支援するのか。施設ではなく、人にお金を使うようなスタンスであれば、より分かりやすくなるのではないか。

委員

基本方針については、リニモが前面に出ているという印象を受けた。

地域の一番小さな組織である班が、向こう三軒両隣で編成されておらず、その辺から変えていかなければならないといけないと思う。災害時を考えても、まずは地元の交流が重要であると思う。子どもに長久手町への愛着を持たせる役割として、平成こども塾があるが、さらに活用していただきたい。

長久手には緑が多いが、人が入って楽しめる緑が少ないと思う。緑に愛着を持たせる方法についても検討が必要ではないか。

委員

長湫南部地区では、区画整理で人口が増えたが、交通渋滞に困っている。例えば、リニモを使った交通形態などを検討する必要があると思う。また、広域的に見ると南北間の交通が弱く、そのあたりも10年先を見据えて検討していただきたい。

長湫南部地区には自治会が3つできたが、同時期に移り住んできた住民同士は非常に良い連携体制になっていると思う。他の地域の自治会の体制作りについてもお願いしたい。

委員

老人会の加入率が非常に少なく、特に、長久手へ移り住んできた高齢者と地域との繋がりが少ないように感じる。また、どこにだれが住んでいるのかもわからない場合が多く、自治会長など特定の人には各世帯の情報を伝えても良いのではないか。

長久手の伝統的なお祭りに、新しく移り住んできた住民が参加できる仕組みが必要ではないか。

委員

平成こども塾は子ども達にとって魅力的な施設だが、西側に住む小学生にとっては、距離が離れていて気軽に行くことができない。西側にも似た施設があると良いのではないか。

委員

長久手町に住んでいる若者が、休日には町外へ出かけてしまう。それは、長久手のどこで何のイベントが行われているかわからないこともある。例えば、リニモの駅に電光掲示板を設置して情報を流すなど、「視界に入るPR方法」が必要ではないか。また、休日を長久手で過ごせるようなイベントやレクリエーション施設などの充実もお願いしたい。

会長

将来像にある「交流都市」というコンセプトもさることながら、「人が輝き」ということは非常に大事であると思う。歴史を研究している立場上、20世紀は「物質文明」であったが、振り返ってみると、社会のすさみや弱者へのいたわり、人間の協働性が薄れかけているように思う。21世紀は「人間の時代」をつくらなければいけないのではないか。この点からも、長久手で「人が輝く交流」を作っていきたいと思う。構想案自体のスタンスや記述には問題ないが、本日の皆さんの意見は多岐にわたり、個別の課題提起が多かったように思われるため、むしろ基本計画に反映していければと考えている。

【その他】

事務的な連絡事項の伝達。

(閉会)